

サントリーの環境経営

自然界の循環システムと共生する事業活動をめざし、 環境負荷の低減と自然環境の保護に取り組んでいます

私たちは、清らかな水や果実・穀物、森林や川・海・大気、そして生き物が創り出す自然の生態系というすばらしい循環システムそのものが、サントリーグループにとって何ものにも替えることのできない大切な経営資源だと認識しています。

私たちは、「水への思い」を胸に、豊かで持続可能な社会を構築するため、環境負荷の低減に最大限の努力を払っています。

グループ全体で環境経営を 推進しています

サントリーは、1991年に「環境室(現・環境部)」と「環境委員会」を設置、1997年に定めた「サントリー環境基本方針」をすべての事業活動における基本的な考え方とし、グループ全体で環境経営を推進しています。

2006年度は、環境経営をより一層確実に推進するため、本社およびお台場オフィスで環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得。企画・調達・物流・環境コミュニケーションといった本社機能の認証取得により、環境活動を継続的にレベルアップしていく体制としました。

環境会計を開示

環境経営を推進するため、サントリーは、事業活動における環境保全への取り組みを定量的に評価する重要なツールとして、環境省「環境会計ガイドライン 2005年版」に準拠した環境会計を開示しています。

Web より詳細な情報をご覧ください。
<http://suntory.jp/csr/2007>
「環境会計」

環境リスク対策を徹底

農産物や水を主原料とするサントリー商品の環境リスクは、他の産業に比べ小さいと考えられます。しかし、工場では燃料や工程の洗浄・殺菌用の薬品も使用しているため、あらゆる異常・緊急事態を想定して発生するリスクを評価し、対応策を講じています。

Web より詳細な情報をご覧ください。
<http://suntory.jp/csr/2007>
「環境マネジメント」

環境活動ビジョン

地球にやさしく、より豊かな暮らしのために

- エコプロダクツの開発と安全・安心・高品質な調達・生産
- エコファクトリーの推進
 - 省エネ、CO₂削減、自然エネルギーの活用
 - 用水量の削減、水質管理の徹底
 - 副産物・廃棄物の排出量抑制と再資源化
- 容器の循環利用の推進と効率的な物流システム構築

将来のより良い地球環境の実現をめざして

- 森林整備による水源地の涵養(かんよう)
- 生物多様性の保全
- 未来を担う子どもたちへの環境教育

サントリー環境基本方針 (1997年制定、2001年改定)

基本理念

地球環境保全は、21世紀における人類の最も重要な課題です。そのためサントリーグループは、地球環境を経営資源の一つと認識して環境保全活動に真剣に取り組み、次の世代に「人と自然と響きあう」持続可能な社会を引き渡すことが出来るよう努力します。

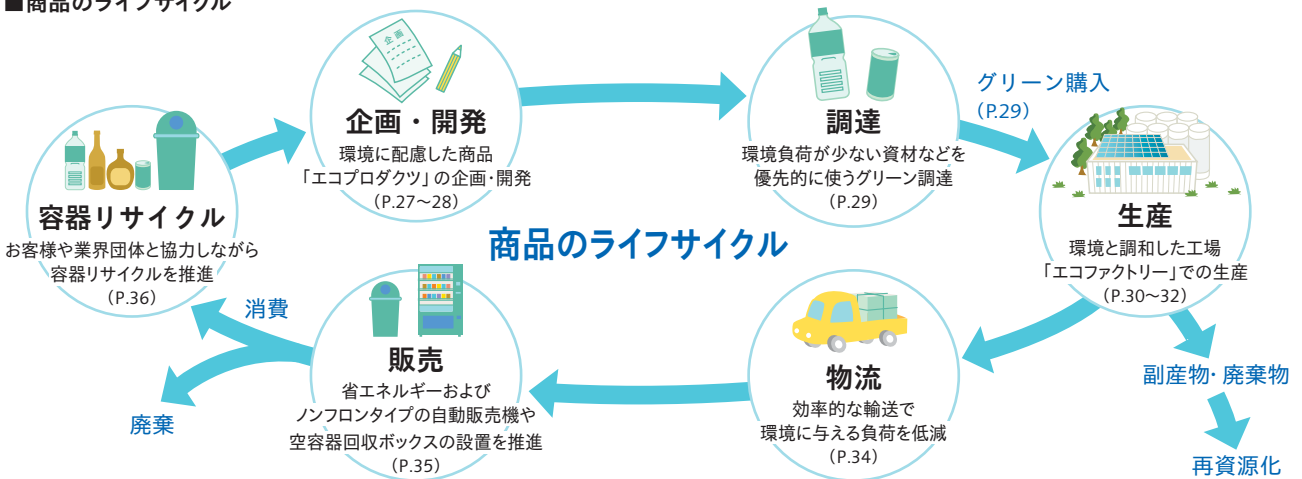
行動指針 (1992年制定)

1. 環境関連の法規制・協定を遵守するとともに、自主管理基準を設定して事業活動に取り組みます。
2. 環境マネジメントシステムを構築し、環境目的・目標を設定して環境保全活動に取り組み、継続的改善につなげます。
3. 商品・サービスの開発にあたり、ライフサイクルの全ての段階における環境負荷に十分に配慮します。
4. 省資源・省エネ、グリーン購入の推進により、資源の利用量低減に努力します。
5. 地球温暖化物質・環境汚染物質などの排出抑制、廃棄物の減量化・再資源化及び容器リサイクルの推進を図ります。
6. 地球環境保全のための社会貢献活動を進めます。
7. 広く社会に環境情報を開示し、社会とのコミュニケーションを推進します。
8. 環境教育・啓発などを通じ、グループ全員が環境意識をもって行動します。

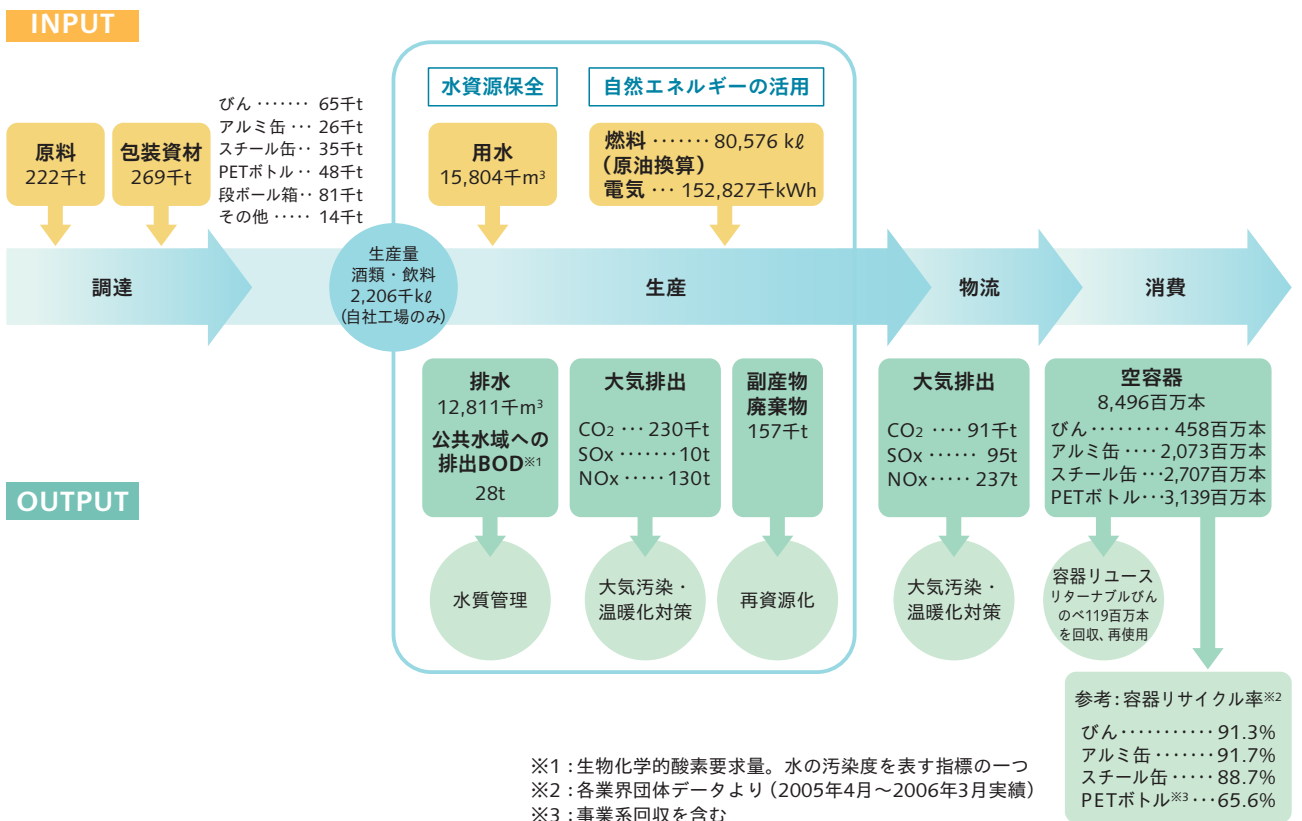
商品のライフサイクルに配慮した環境負荷低減に取り組んでいます

商品づくりにおいては多くの資源・エネルギーが使われ、また副産物や廃棄物が排出されます。サントリーでは、環境マネジメントの一環として、一つの商品が企画・開発されて、廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通じて、環境負荷低減に取り組んでいます。

■商品のライフサイクル



■物質とエネルギーの流れ(対象期間 2006年1月1日~12月31日)



水とともに生きる

サントリーの環境経営